

所報2022



おおすみ



令和3年度 海からのメッセージ



独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家

目 次

はじめに

I	令和3年度教育事業等の開催一覧	1
II	教育事業等の実施状況	2
	キッズたんけんたい①②	3
	おおすみくん家 通学合宿	5
	体験の風をおこそう ファミリーキャンプ①～⑥	6
	体験の風をおこそう フェスティバルinおおすみくん家	12
	海からのメッセージ	13
	おおすみくん家に遊びに来ませんか！！	16
	おおすみくん家 漂流物たんけん隊	17
	地域探究プログラムオリエンテーション合宿	18
	ボランティア養成研修	19
	NEALインストラクター養成研修	20
	おおすみくん家 スポーツキャンプ バレーボール	21
III	令和3年度における傷病発生状況	22
IV	令和4年度 国立大隅青少年自然の家運営方針	24
1	基本的な運営方針	24
2	事業運営に関する重点事項	24
3	教育事業の質の充実と普及	24
4	研修支援の充実と利用拡大	26
5	安全安心な教育環境の確保	27
6	業務運営に関する事項	28
V	令和4年度 教育事業等の計画一覧	30

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

はじめに

国立青少年教育振興機構は「体験活動を通じた青少年の自立」を目指し、青少年の体験が不足している状況を踏まえ、全国に28ある施設がそれぞれの立地・環境を活用した体験活動の機会と場を提供しています。

当国立大隅青少年自然の家「^ちおおすみくん家」は、背後に高隈山系、眼下に錦江湾と豊かな自然環境に囲まれたところに立地しており、その自然資源を活かし海浜活動、ハイキング、自然工作、野外炊事等のプログラムを提供しています。

当施設の利用については、年度当初から宿泊室、食堂、研修室や野外炊飯場などの定員をおおむね半分に減らすなど三密を避けた利用をお願いするとともに、所内各所にアルコール除菌スプレーを設置するなど新型コロナウイルスの感染拡大防止対策をとっています。そのような中でも令和3年度は、小中学校の宿泊学習や青少年団体の活動、高校・大学の合宿、企業研修等日帰りも合わせ約2万4千人の方々にご利用いただきました（令和2年度は約1万9千人）。

また当施設が主催して行う教育事業については、新型コロナウイルスの感染拡大や天候不良により当初の計画から6事業を中止としましたが、青少年や家族を対象とした体験活動事業や指導者等の研修に関するものなど計14事業を行いました。

中でも看板事業で長期自然体験活動の「海からのメッセージ」では、台風の影響で1日短縮して5泊6日となりましたが、大隅半島から指宿市の知林ヶ島へカヌーでの横断にチャレンジできました。

また新規としては、2事業ありました。全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿では、最高賞の文部科学大臣賞を受賞した生徒も出ました。また、防災キャンプでは、防災の知識だけでなく非常食や段ボール部屋等の体験もできました。

本報告書はこれら教育事業の実施概要とその成果と課題についてまとめたものです。是非御一読いただき、忌憚のない御意見・御助言等いただければ幸いです。

おわりに、当施設の事業運営に御支援・御協力をいただきました関係機関、関係各位の皆様方に厚くお礼申し上げます。

令和4年9月

独立行政法人国立青少年教育振興機構
国立大隅青少年自然の家
所 長 吉 松 純 昭

I 令和3年度教育事業等の開催一覧

I 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

1. 生活リズムに関する普及啓発事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	おおすみくん家 キッズたんけんたい①・②	小学校低・中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。	① 9.19(日)～20(祝・月)(1泊2日) →11.6(土)～7(日)へ変更 ② 10.23(土)～24(日)(1泊2日)	①小学1・2年生 ②小学3・4年生	各40	①41 ②39
2	おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、連帯感や協調性を育てる。	11.8(月)～12.11(土) 1.11(火)～3.4(金)(13週) →1.24(月)～2.18(金)(4週)へ変更	小学3～6年生	各40	80

2. 体験活動や読書活動に関する普及啓発事業

※ 2～5は、鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業として実施

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	体験の風をおこそう ファミリーキャンプ①～⑥	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。 ※ ⑤は、「ファミリー防災キャンプ」(仮称)として実施予定	① 5.29(土)～30(日)(1泊2日) ② 6.26(土)～27(日)(1泊2日) ③ 8.28(土)～29(日)(1泊2日) ④ 12.18(土)～19(日)(1泊2日) ⑤ 1.22(土)～23(日)(1泊2日) ⑥ 2.5(土)～6(日)(1泊2日) →3.12(土)～13(日)(1泊2日)へ変更	子ども・親	各60	①10家族35 ② 8家族30 ③ 5家族18 ④12家族46 ⑤ 4家族15 ⑥ 1家族 4
2	体験の風をおこそう スタンプラリー	鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動の協力団体が実施する事業をスタンプラリーとして実施し、各協力団体の事業広報活動の充実と各地域における体験活動の推進を図る。	7月～12月	子ども・親・一般	100	コロナ関連中止
3	子どもゆめ基金募集説明会 【宮崎会場】【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和4年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	宮 崎: 9.11(土)(1日) 鹿児島: 9.12(日)(1日) →10.24(日)(1日)へ変更	申請予定団体	40 100	宮崎:コロナ関連中止 鹿児島: 28
4	ばら祭りウォーキング大会	関係機関と連携し、ウォーキング活動を通して、「体験の風をおこそう」運動の普及啓発を図る。	11.3(水)(1日)	子ども・親・一般	-	コロナ関連中止
5	体験の風をおこそうフェスティバルinおおすみくん家	子ども・親・一般の方々に当施設の活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、当施設の利用促進を図る。	12.4(土)～5(日)(1泊2日) →12.5(日)(1日)へ変更	子ども・親・一般	-	239

3. 長期自然体験活動事業(実践研究事業を兼ねる。)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより海の良さを知り、「生きる力」を育む。 また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ児童生徒の自立を支援する。	8.6(金)～12(木)(6泊7日) →～11(日)(水)(5泊6日)へ変更	小学5年生～中・高校生(心に悩みをもつ児童生徒を含む)	32	18

4. 課題を抱える青少年の支援事業

※ 2は、生活自立支援事業として実施

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	おおすみくん家に遊びに来ませんか! ①～⑥	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	① 6.19(土)(1日) ② 9.18(土)(1日) ③ 10.16(土)(1日) ④ 11.20(土)(1日) ⑤ 1.15(土)(1日) ⑥ 3.5(土)(1日)	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生	各10	①14 ②コロナ関連中止 ③ 6 ④ 6 ⑤コロナ関連中止 ⑥コロナ関連中止
2	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験及び生活体験の活動を通して、生活・自立を支援するとともに、児童生徒の基本的な生活習慣の確立を目指す。	7.28(水)～29(木)(1泊2日)	児童養護施設の児童生徒	20	コロナ関連中止

5. 防災・減災教育事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	ファミリー防災キャンプ(仮称)	全国的に頻発している災害について、親子で必要な知識を得るとともに、防災意識を高め、もしもという場合の対応方法を実践することにより、災害時の行動について考えを深める。 ※ファミリーキャンプ⑤として実施予定	1.22(土)～23(日)(1泊2日)	子ども・親	60	4家族15

6. 特色あるプログラム事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	おおすみくん家 漂流物たんけん隊	錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることをとおして、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動をおとして、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせる。	10.30(土)～31(日)(1泊2日) →10.30(土)(1日)へ変更	小学5・6年生	20	24

7. 実践研究事業(長期自然体験活動事業を兼ねる。)

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより海の良さを知り、「生きる力」を育む。 また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ児童生徒の自立を支援する。	8. 6(金)～12(木)(6泊7日) →～11日(水)(5泊6日)へ変更	小学5年生～中・高校生(心に悩みをもつ児童生徒を含む)	32	18

8. 全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿①②	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見いだしたりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。	① 7.10(土)～11(日)(1泊2日) ② 7.17(土)～18(日)(1泊2日) 7.31(土)～8/1(日)(1泊2日)	2回参加できる県内の高校生	15	12名

II 青少年教育指導者等の養成事業

1. ボランティア養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	ボランティア養成研修	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6.12(土)～13(日)(1泊2日) →6.5(土)～6日(日)(1泊2日)へ変更	15歳以上・一般	40	41

2. 自然体験活動指導者(NEAL)養成事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	自然体験活動上級指導者(インストラクター)養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	4.27(火)～30(金)(3泊4日)	18歳以上・一般	20	7

III 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	募集 人数 (人)	参加人数
1	宿泊学習等利用者説明会①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実させる。	① 4.16(金)(1日) ② 4.22(木)(1日) ③ 8.25(水)(1日)	登山・ハイキング活動及び海浜活動を計画している学校・青少年団体等の引率者	各20	①23 ②23 ③34
2	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	5.22(土)～23(日)(1泊2日) →7.3(土)～4(日)(1泊2日)へ変更	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	3チーム34
3	おおすみくん家 スポーツキャンプ【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7.24(土)～25(日)(1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
4	おおすみくん家 スポーツキャンプ 【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	2.19(土)～20(日)(1泊2日)	中学生の関係部活動部員及びその指導者	80	コロナ関連中止
5	少年少女登山教室	登山を通して、人が自然と関わることの素晴らしさ、スポーツとしての登山の楽しさを味わわせる。	11. 6(土)～ 7(日)(1泊2日)	小学4年～中学生	30	コロナ関連中止

令和3年度 子どもゆめ基金20周年記念事業キッズたんけんたい①

1 趣 旨 小学校低学年の子供たちが、親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。

2 期 日 令和3年11月6日（土）～7日（日）1泊2日

3 参加対象 小学1・2年生

4 募集定員 40人程度

5 参加者 41人（申し込み：80人）

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人



7 日 程

11月6日（土）	11月7日（日）
10:00 受付	6:30 起床・洗面・着替え・テント撤収
10:30 出合いのつどい	7:30 朝食
13:25 テント設営	9:30 野外クッキング ・溶岩プレートピザ
14:40 たんけんに行こう！（館内Ver）	13:00 振り返りタイム
17:00 入浴	13:20 別れのつどい
18:00 夕食	13:50 解散
19:00 あそびリンピック	
21:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動ごとに「手洗い・うがいの時間」を設定するとともに、活動時のマスク着用，ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また受付時，班付きボランティアにキッチンペーパーと除菌用アルコールを配して活動場所の消毒を適時実施した。
- 小学校低学年対象ということで子供達が意欲的に取り組めるような活動や、友達と協力する活動，自然体験活動をプログラムに取り入れた。
- 生活習慣の意識が高まるよう，自分のことは自分でさせるとともに，自然体験，野外炊飯，生活体験（テント設営），遊び（あそびリンピック）等，多岐にわたるプログラムを実施した。

9 参加者の感想

- テントを自分で立て、そこで寝ることができたので楽しかった。
- 館内たんけん（宝探し：シュラフ）がとても楽しかった。
- 友だちができたので良かった。ピザづくりが初めてだったけど、自分で作れてびっくりしました。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 親元を離れた宿泊を伴う生活で不安や緊張を抱える中，各種体験活動や共同生活を体験することで基本的な生活習慣を身に付けるきっかけになり，様々なことへ自信が付いた子が増えた。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を意識した手洗い，うがいの徹底，ソーシャルディスタンスを確保した活動が行えた。
- 食事時間が足りなかった。各食1時間は確保しておいた方が良かった。
- ホームシックにかかる児童への対応。



体験の風をおこそう キッズたんけんたい②

1 趣 旨 小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり、協力したりする活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。

2 期 日 令和3年10月23日（土）～10月24日（日）1泊2日

3 参加対象 小学3・4年生

4 募集定員 40人程度

5 参加者 39人

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員4人、ボランティア4人

7 日 程

10月23日（土）	10月24日（日）
10:00 受付	6:30 起床・洗面・着替え・テント撤収
10:30 出合いのつどい	8:00 朝食
11:10 ふれあいタイム	8:45 野外炊飯（昼食）
12:20 昼食	・溶岩プレートピザ
13:25 テントをたてよう！	・焼きマシュマロ
14:40 たんけんにいこう！	・ポップコーン
16:40 遊びリンピック・モルック	13:00 アンケート記入・別れのつどい
18:00 入浴、夕食	13:50 解散
20:00 遊びリンピック	
21:00 消灯・就寝	

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動ごとに「手洗い・うがいの時間」を設定するとともに、活動時のマスク着用、手指消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、宿泊はソロテントを使用し一人一テントに宿泊した。
- 小学校3、4年対象ということで参加者が意欲的に取り組める活動や、友だちと協力する活動、自然体験活動をプログラムに取り入れ、時間的に余裕のあるスケジュールにした。また、10月下旬の事業ということもあり、「ハロウィン」の要素を取り入れ、プログラムや装飾を行った。
- 生活習慣の意識が高まるよう、自分のことは自分でさせるとともに、自然体験、野外炊飯、生活体験（テント設営）、遊び（あそびリンピック）等、多岐にわたるプログラムを実施した。

9 参加者の感想

- テントを立てたり、寝袋で寝たりするのが楽しかった。
- ピザ作りや焼きマシュマロ、ポップコーン作りなど楽しかった。おいしかった。
- 遊びリンピックやいろいろなたんけんがあってとても楽しかった。



10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 新型コロナウイルス感染防止対策を意識した手洗い、うがいの徹底、ソーシャルディスタンスを確保した活動が行えた。
- 各自が率先して行動でき、計画よりスムーズに進めることができた。
- 法人ボランティアの人数確保が難しく、4班での活動になったため各班の人数が10人となり、法人ボランティアが大変そうだった。
- フェリーの引率を今回はなくした。参加途中で復路のチケットを紛失した参加者がいた。



1 趣 旨 集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら、普段の学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けるとともに、連帯感や協調性を育てる。

2 実施期間 令和4年1月24日（月）～2月18日（金）（4週8回）内 2泊3日

3 参加対象 鹿屋及び垂水市内の小学4～6年生児童（所要時間約30分程度）

4 募集定員 30人程度

5 参加者 応募：16校228人 参加者：11校80人

6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員、研修指導員5人



7 生活時間

1日目	2日目	3日目
	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 バスで登校	6:00 起床・身支度・清掃 7:00 朝食 7:30 バスで登校
17:00 受付 17:15 オリエンテーション 18:00 夕食 18:30 宿泊室へ移動 19:00 学習等 20:30 入浴 21:20 翌日の準備 21:30 就寝	16:15 バスで下校 17:00 学習等 18:00 夕食 19:00 学習・読書・交流 20:30 入浴 21:20 翌日の準備 21:30 就寝	

8 事業運営上の配慮

- 感染防止対策として、宿泊室や入浴時に別の学校と交わらない人数・時間設定にした。
- 担当3職員と連携して、配慮が必要な児童の共有及び安全面への配慮を行った。
- 起床時や就寝前の健康状況や食事の様子等についてチェックし、健康状況の把握に努めた。

9 参加者の感想

- 感じたのは親の苦勞です。朝起こすのは大変だと感じたので、自分で起きたい。
- テレビやゲームがなくても、いつもより楽しく過ごせた。
- ふとんを敷く大変さ、友達と協力する・早寝早起きする大切さが分かった。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 自分の生活や家族との関係を見直すきっかけとなっていた。
- キャンセル期日や開催人数・範囲など、金額に関する部分を明確にし共通理解する。

体験の風をおこそう ファミリーキャンプ①

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和3年5月29日（土）～30日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 10家族35人（申し込み：44家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人
- 7 日 程

5月29日（土）	5月30日（日）
14:30 受付	6:00 起床・洗面・着替え・テント撤収
15:00 出合いのつどい	7:00 朝食「カートンドッグ作り」
15:30 テント設営	8:30 カヌー・サンドクラフト体験
16:30 野外炊飯「バーベキュー」	
19:00 天体観察・家族の時間・自由交流 入浴（19:00～21:45）	11:30 アンケート記入・別れのつどい
22:00 消灯・就寝	12:00 解散

8 事業運営上の配慮

- 発達段階に応じた海浜活動が実施できるよう、指導担当職員を多めに配置し、カヌー体験やサンドクラフト体験を実施した。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートと健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。
さらに炊飯は1ファミリー1羽釜、カヌー体験も1ファミリー1艇とし、ファミリー同士の接触が極力発生しないように企画・運営した。

9 参加者の感想

- テント泊・カヌー体験・ご飯炊きなど、とても良い経験ができました。普段できない経験をした息子の顔がきらきらしていました。それを見た私もとても嬉しかったです。とても楽しいファミリーキャンプでした。ありがとうございました。
- 日頃できない事を体験でき、とても楽しかったです。準備から、片付けまで至れり尽くせりで申し訳ない感じでした。また機会があったら参加したいです。ありがとうございました。
- 家族だけで過ごすキャンプより、子どもの反応ややる気など感じる事ができた。学校での様子も中々わからない事が多いので、良い機会となった。

10 成 果

- 2日間、晴天プログラムで実施できた。参加者は海浜施設でのバーベキューやテント泊、カヌー体験ができ大変喜んでいました。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。



体験の風をおこそう ファミリーキャンプ②

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和3年6月26日（土）～27日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 8家族30人（申し込み：90家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人・ボランティア1人
- 7 日 程

6月26日（土）		6月27日（日）	
14:30	受付	6:00	起床・洗面・着替え・テント撤収
15:00	出合いのつどい	7:00	朝食「カートンドッグ作り」
15:30	テント設営	8:30	カヌー体験
16:30	野外炊飯「バーベキュー」		
19:00	花火・家族の時間・自由交流 入浴（19:00～21:45）	11:30	アンケート記入・別れのつどい
22:00	消灯・就寝	12:00	解散

8 事業運営上の配慮

- 発達段階に応じた海浜活動が実施できるよう、指導担当職員を多めに配置し、カヌー体験を実施した。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートと健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。

9 参加者の感想

- テントを自分たちで立てたりかまどでお米を炊いたり、炭に火を着けたり初めての経験でした。意外と難しかったけど、親子で貴重な体験ができました。
- もっと利益を出して何回も募集してほしいです。お金をたくさん払っても参加できたら嬉しいです。
- 大変楽しい時間を過ごせました。ありがとうございました。
- いろいろお世話をしてくれてありがとうございました。
- 子どもには、いろんなことを体験してほしいと思っていたけれど、知らず知らずのうちに手を出していました。見守ることの大切さに気がきました。

10 成 果

- 2日間全てのプログラムで実施できた。家族でキャンプをしたいという意見もあり、野外での活動のよさに気付く参加者も多かった。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。



子どもゆめ基金 20 周年記念事業 体験の風をおこそう ファミリーキャンプ③

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和3年8月28日（土）～29日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 5家族18人（申し込み：121家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人・ボランティア1人
- 7 日 程

8月28日（土）	8月29日（日）
14:00 受付	6:00 起床・洗面・着替え
14:30 出会いのつどい	7:00 朝食「カートンドッグ作り」
15:00 テント設営	9:00 カヌー体験
16:00 野外炊飯「バーベキュー」	10:30 海辺のごみ拾い
19:00 花火・家族の時間・自由交流	11:00 テント等片づけ
入浴（18:30～21:00）	11:45 アンケート記入・別れのつどい
22:00 消灯・就寝	12:00 解散

8 事業運営上の配慮

- 熱中症対策として、お茶の給水やペットボトル飲料を十分に準備した。また、適宜休憩時間を入れるなど活動時間にゆとりを持つよう配慮した。
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に健康チェックシートを配布し、防止対策の協力を呼びかけた。

9 参加者の感想

- コロナ禍でほとんどの予定が無くなってしまった中、参加することで子どもが協力して目的を遂げる経験ができました。
- 火おこしやカヌーなど、人手や経験がないと子どもにさせられないことができてとても良かったです。
- 子どもにもできそう、とイメージできるアドバイスだったため、子どもが進んで参加してくれました。
- 未就学児もサポートしていただけたので、楽しく参加することができました。ありがとうございました。
- 準備等含め、大変お世話になり、ありがとうございました。コロナの感染対策も十分にとられ、安心して参加することができました。

10 成果と課題

- 天候に恵まれ、2日間全てのプログラムで実施できた。家族でキャンプをしたいという意見もあり、野外での活動のよさに気付く参加者も多かった。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。



森伊蔵酒造協賛事業 ファミリーキャンプ④

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和3年12月18日（土）～19日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプや海浜活動など自然体験に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 12家族46人（申し込み：144家族）
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員3人 法人ボランティア1名
- 7 日 程

12月18日（土）	12月19日（日）
13:00 受付	6:30 起床・洗面・着替え
13:15 出合いのつどい	7:30 朝食
13:45 自然散策	8:40 退所点検
14:45 クラフト活動「クリスマスリース」 「ジェルキャンドル」	9:00 記念撮影
17:20 入浴（18:20）	9:15 野外炊飯
18:30 夕食	11:30 別れのつどい
19:30 クリスマス会	11:45 解散
20:15 家族団らん	
22:00 就寝	

8 事業運営上の配慮

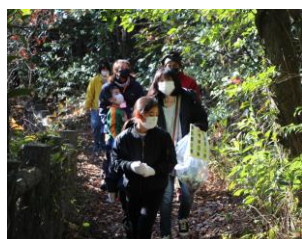
- 新型コロナウイルス感染防止対策として、活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。また、受付時に各家族に除菌シートを配布し、感染防止対策の協力を呼びかけた。

9 参加者の感想

- 家族で一緒に参加できることに魅力を感じて参加しました。参加してみるととても充実した時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました。
- 初めてこの施設を利用させて頂きました。職員の方々が一生懸命優しく教えて下さり嬉しかったです！主人が参加できなかったのが残念でしたが、また利用したいと思いました。子ども達にも良い思い出となりました。ありがとうございました。
- 急な申し出にも対応して下さい、ありがとうございました。嫌な顔一つせず対応して下さい、本当に助かりました。

10 成 果

- クラフト活動やクリスマス会、野外炊飯など多くの体験ができ参加者が大変喜んでいました。
- 新型コロナウイルス感染防止対策を周知していたため、参加者の対策意識も高く、適切に活動が行えた。



体験の風をおこそう ファミリーキャンプ⑤

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子供の豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和4年1月22日（土）～23日（日）1泊2日
- 3 参加対象 自然体験活動に興味のある家族
- 4 募集定員 10家族40人程度
- 5 参 加 者 4家族15人
- 6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員 鹿屋体育大学 坂口 俊哉 先生



7 日 程

【1日目】	【2日目】
10:00 受付(自然の家本館)	6:00 起床
10:30 出合いのつどい	6:30 テント片付け
11:40 野外炊飯(豚汁, アルファ化米)	7:30 朝食(ホットサンド)
14:00 クラフト&ロープワーク	9:00 ワークショップ
16:00 野外炊飯(カレー, 救給カレー)	10:00 アンケート
18:30 テント設営&入浴	10:10 スポーツクライミング
20:30 家族の時間	11:10 別れのつどい
	12:00 解散

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、各家族に除菌ボトル1個を配付し、野外炊飯時には必ずビニル手袋を適宜使用するよう参加者に呼びかけた。
- 防災の意識やプログラムの意図(自助・共助・公助、キャンプの知識が役に立つ)が伝わるように活動をおこなった。

9 参加者の感想

- 火起こしと野菜を切るのが難しかった。みんなでテントで寝てわくわくした。
- 豚汁が大好評でした。意外にアルファ化米もおいしかった。
- 子どもたちが防災について楽しく学べるのがよかった。
- 子どもたちも大変満足していました。

10 成果と課題 (○成果 ●課題)

- コロナ禍で心配したが、参加された家族の防災に対する意識は高く満足度は高い様子であった。
- 感染対策を意識し準備したため、プログラムや食事などスムーズに行えた。
- 参加が少なかったため1家族ごとに時間、スペースともに確保ができ、ゆっくり過ごすことができた。
- 坂口先生が講義内容を未就学児に合わせて、防災のことをいろいろと教えるのは難しい。ファミリーキャンプで「防災」を行うかは疑問。
- 申し込みから実施までの利用者とのやりとりが煩雑。抽選結果の通知やメールの開封確認、キャンセルの処理などスムーズに変えていく必要がある。



令和3年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業 体験の風をおこそう ファミリーキャンプ⑥

- 1 趣 旨 自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。
- 2 期 日 令和4年3月12日（土）～13日（日）1泊2日
- 3 参加対象 キャンプ経験のある家族
- 4 募集定員 8家族32人程度
- 5 参加者 1家族4人（申し込み：2家族）
- 6 指導者 国立大隅青少年自然の家職員3人
- 7 日 程

3月12日（土）		3月13日（日）	
14:00	受付	6:00	起床
15:00	出会いのつどい フリータイム 夕食など		朝食など
18:00	入浴（18:00～19:00）	9:00	撤収
22:00	消灯・就寝	10:00	アンケート記入・別れのつどい 解散

8 事業運営上の配慮

- 広報を従来の学校ヘチラシを均等に配布する広報から、家族やキャンパーが訪れる大隅半島（垂水市、鹿屋市、錦江町などを含む）や霧島市の公共施設やスーパーマーケット、商業施設に限定した。
- 今回はプログラムを設定せず、人工芝や草スキー、フライングディスクゴルフコースなど場所提供のみに留め、時間に縛られず、自由に過ごしてもらうことに配慮した。
- キャンプ時のマナーを認識させるペーパーを作成し、説明する時間を設けた。
- テント泊であること、寒さを考慮して、時期を2月から3月に変更して実施した。

9 参加者の感想

- スタッフの方がとても親切に対応してくれたので、助かりました。
- 施設の清掃がしっかりなされていて気持ちよく過ごせました。
- 本当に自由に過ごせました。ありがとうございました。
- 今回はキャンプがメインでしたが、施設などを子どもたちと利用したいです。
- 大隅半島は現在キャンプ場が混んでおり、予約がとりづらく、また、近隣であっても料金が高等の理由で候補から外すキャンプ場もあるため、今回の自然の家でのキャンプは大変魅力に感じた

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 炊事場や浴場、トイレへのアクセスを考慮し、つどいの広場を会場に選んで実施した結果、負担なく実施できた。
- 時間にゆとりをもたせたため、参加者のテント設営状況に合わせていろいろ庵等の施設紹介をできた。
- 事業実施後、参加者がすぐに次回の申込みの相談をしてくれた。
- 所内のテント泊を行う場所の候補の中では、つどいの広場が一番広いが、ファミリー用のテント設営サイズを考慮すると、ゆったり利用するためには4家族程度に抑えることが望ましい。
- 広報範囲や参加対象を広げること（ソロ、グループなど）は、マナーを含め十分に検討が必要。



令和3年度鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業 「体験の風をおこそう」フェスティバル in おおすみくん家

- 1 趣 旨 子ども・親・一般の方々に当施設で行われる活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、当施設の利用促進を図る。
- 2 期 日 令和3年12月5日（日）
- 3 参加対象 自然体験に興味のある家族
- 4 申込者数 199人
- 5 参 加 者 239人
- 6 指導・協力団体 鹿屋工業高等学校、南大隅高等学校、串良商業高等学校、鹿屋農業高等学校、青少年研修センター、霧島自然ふれあいセンター、出水市青年の家、上野原縄文の森、鹿屋市市民生活部市民スポーツ課国体推進室、全国高等学校総合文化祭鹿児島実行委員会、アウトドアショップキャメル、鹿屋体育大学海洋スポーツセンター、BAGN Inc、国立大隅青少年自然の家・法人ボランティア

7 日 程

時間	内容	詳細など
9:30	受付・開会	国公立施設クラフトブース、高等学校による販売、吹奏楽演奏、自転車、木材加工体験ブース、その他ポート体験、全国高校文化祭展示ブース、SDGs展示ブースなど
10:00, 11:00	体験ブース1巡目・2巡目	
12:00	休憩	
13:00, 14:00	体験ブース3巡目・4巡目	
15:00	閉会	

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナウイルス感染防止対策として、ブース毎に消毒用スプレーを配布し、体験毎に消毒を行ってもらうよう、協力団体に呼び掛けた。また、会場内にも参加者用の手指消毒スプレーを設置したほか、館内アナウンスで活動時のマスク着用、手指の消毒の励行、ソーシャルディスタンスの確保を参加者に周知した。

9 参加者の感想

- 事前申込が埋まっていた体験できないと思っていたので、体験できて本当によかったです。
- 初めて取り組むゲームに関しては、なかなかうまくいかず四苦八苦していましたが、高校生が付いて教えて楽しめている様子でした。
- 豊かな自然の中で、運動やクラフトなど様々な体験活動ができて良い経験になりました。
- 幼児が一人で作ることが出来たと大喜びしています。お手伝いありがとうございました。

10 成果

- 参加を予約制（時間別）にしてあるのが非常によかった。会場が密になることもなく参加者対応がスムーズにできた。
- 各ブース毎に担当職員、ボランティアを配置したところ、対応がきめ細やかでとても助かったと声が多かった。
- 小さな子どもでもできる「シャボン玉」を活動として取り入れた点は良かった。



海からのメッセージ

～ 「カヌーと野炊とテントと私」 ～

- 1 趣 旨 鹿児島湾（錦江湾）を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、海の良さを知り、「生きる力」を育む。また、長期冒険型活動を通して心に悩みをもつ青少年の自立を支援する。
- 2 期 日 令和3年8月6日（金）～11日（水） 5泊6日
- 3 参加対象 小学5・6年生、中学生、高校生
- 4 募集定員 20人
- 5 参加者 18人（小学生11人、中学生7人）
- 6 指導者 外部指導員4人 国立大隅青少年自然の家6人 ボランティア5人
- 7 日 程 【全行程（約30km）をカヌーで実施】

日 時	活 動 内 容	活動(宿泊)場所
8月 6日（金）	開講式、アイスブレイク、カヌー練習	新城海の家
8月 7日（土）	新城～荒平天神～浜田海水浴場	新城海の家
8月 8日（日）	クラフト活動、クライミング	新城海の家 自然の家本館
8月 9日（月）	鹿屋体大海洋スポーツセンター（SUP、海浜観察、ロープワーク等）	鹿屋体大海洋SC 新城海の家
8月10日（火）	浜田海水浴場～知林ヶ島	新城海の家
8月11日（水）	片付け、まとめ、閉講式	新城海の家

8 事業の企画・運営

- (1) 昨年度までのコースを一新し、「鹿屋体育大学海洋スポーツセンター」での海洋体験学習は取り入れ、実践研究と兼ね、挑戦・協力・体験の3つを今回のテーマとした。
- (2) ルート設定後、職員の実地踏査や外部指導員と検討を重ね、危険箇所の確認を十分に行った。
- (3) 18人の参加者を6人×3班の編成とした。監視艇及び救助艇3艇での監視、マイクロバス1台での移動を可能にしたことで参加者の安全面に十分配慮した。
- (4) 鹿屋市、垂水市、指宿市や関係機関（海上保安部、喜入海上保安署、指宿海上保安署、漁業協同組合、警察署、消防署）と連携を密にし、活動中の安全対策を万全にした。
- (5) 昨年度にならい、全日程、新城海の家を宿泊場所にすることで野外炊飯を食事のメニューに入れることができた。

9 事業の実際

1日目（6日）に開講式を行った。アイスブレイク後、翌日からの荒天を考慮し、急遽、カヌーの操作や乗り降り、沈、再乗艇、曳航の確認などの練習を取り入れた。その後の野外炊飯に時間がずれ込んだが、カヌーの経験をさせる上でも1日目に練習の時間を入れ、へしたのはよかった。野外炊飯もスムーズに行えた。

2日目（7日）は、晴天で海の状態もよく、新城海の家から荒平天神そして海洋スポーツセンターまでを



計画していたが、次の日の天候を考え浜田海水浴場で漕ぐ形をとった。残念ながら一人発熱で帰宅することになったが、その他17人は約10kmを漕破することができた。

3日目(8日)は、台風の影響で海に出ることができなかった。朝食後、本館に行き、午前中は革細工、午後からは、遊びリンピックとスポーツクライミングを行った。その間、スタッフでテントを海浜観察室に運び入れ、宿泊場所にした。雨風が激しかったが、何事もなく海の家で過ごすことができた。

4日目(9日)は、朝からまだ少し台風の影響で波が高かった。海洋スポーツセンターに移動し、雨天プログラムを準備していただいた。午前中は、ロープワークやカヌーの説明等、海以外でできる活動を行い、午後は海の状態を見てSUPを行った。計画していたヨットでの活動はできず残念だったが、SUPだけでも海浜活動ができたのはよかった。

5日目(10日)は、天気も回復し、知林ヶ島に浜田海水浴場から挑むことにした。朝食も野外炊飯はせず弁当で済ませ、できるだけはやく浜田海水浴場から出発することとした。今年度は事業開始時の台風の影響で蒼天丸でなくトルネードでの救助となったのでトイレがない等の指導を事前に徹底した。当初、台風の影響がほとんどない風の状態でのカヌー槽航だったが、11時頃から風が出てきだし、最後は知林ヶ島を目の前に曳航される形となった。

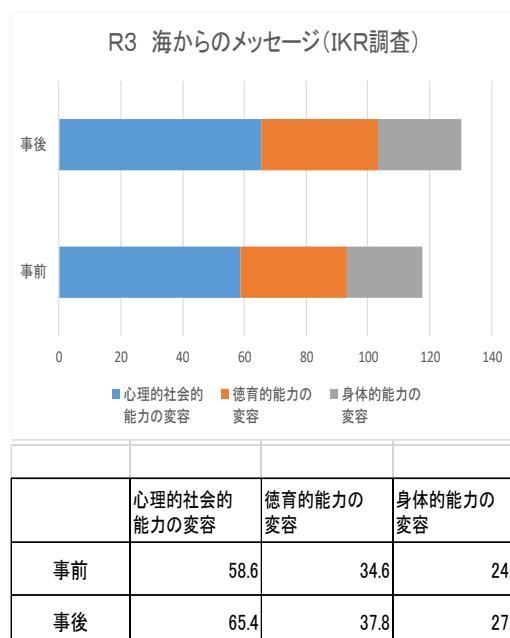
挑んだ参加者全てが知林ヶ島にたどり着くことができ、ホッとする安堵感と達成感があつた。参加者も自然の雄大さと怖さを垣間見る活動であつたと思う。

6日目(11日)は、テントの撤収や荷物整理、カヌーを始めカヌー艇庫の掃除、これまでの反省等を行った。昨年度は十分にカヌーの片付け等が行えなかったのが、最後にきちんと後片付けまでできたのでよかった。その後、これまでの反省やこれからの目標についてボランティアを中心に班活動を行った。お世話になったボランティアとも最後にいろいろな話ができてよかったようである。閉講式ではスタッフもそれぞれ話す場を設定し感想を語ってもらった。それぞれの思いも語れてよかったと思う。



10 アンケート結果（参加者 I K R アンケート）

全体的（生きる力の変容）に見ると、事前から事後にかけて 12.6 ポイント向上し、有意差が見られた。項目別に見ると「洗濯機でなくても手で洗濯できる」で 1.06 p, 「その場にふさわしい行動ができる」で 0.82 p, 「自分で問題点や課題を見つけることができる」で 0.82 p 上昇するなど全ての項目で事前と事後とで意識の向上が見られた。これは、5泊6日という長期宿泊体験を通して、友だちと協力し、コミュニケーションを取ることの大切さを学んだこと、普段の生活から離れ、自分自身を見つめる時間が多くあったこと、自己の課題を発見し、それに対してどう対応するべきか考えることができたことなどが要因ではないかと思われる。スマホやゲーム、SNSなどに囲まれた生活から、しばらく離れた生活をしたことで人との関わりが増え、自己肯定感も高まったのではないかと考えられる。



11 参加者・保護者の事業後の感想

（1）参加者の感想

- ・カヌーはペアの人と声をかけ合いながら漕ぐことができた。知林ヶ島に渡るのは大変だったけど、協力してできたのでよかったです。
- ・初めて長い期間、家を離れて過ごしました。楽しく6日間を乗り着ることができました。自分の自信につながればと思っています。
- ・きついこともあったけど、カヌーやサップ、テント泊や野外炊飯などたくさんの経験ができました。ありがとうございました。
- ・貴重な体験ありがとうございました。
- ・とても楽しくて充実していたので、また同じメンバーで集まりたい気持ちでいっぱいです。6日間、ありがとうございました。また何か新しいことに挑戦してみたいです。参加させていただきありがとうございました。

（2）保護者の感想

- ・貴重な経験をさせていただきありがとうございました。カヌーだけでなく、野外での活動などいろいろな経験をすることができ、喜んでおります。目を輝かせて出来事を話してくれたことにうれしく思いました。
- ・5泊6日という長い期間、親元を離れて生活するのは初めてでした。両親の不安に反してとても楽しかった様子で本人の自信につながったようです。
- ・あまり親に頼らず、「自分のことは自分でやる。」という気持ちが芽生えたように思います。成長してくれたことをうれしく思います。久しぶりに会った時にはたくましく感じました。ありがとうございました。

12 成果と課題（○成果 ●課題）

- 今年度は、カヌー挑戦に加え錦江湾横断、鹿屋体育大学海洋スポーツセンターでの体験活動を取り入れた。さまざまな面から海からのメッセージを感じさせるといったプログラムはよかった。
- 体大からの実習生や法人ボランティアの方々の活躍があり、目的地の知林ヶ島に到達することができた。
- 日程を細かく決めておくと台風や荒天時に予定が立たないので、1日くらい予備日があってもよいかもと感じた。

令和３年度 国立大隅青少年自然の家 教育事業
 おおすみくん家に遊びに来ませんか！！

1 趣 旨 不登校及び不登校傾向にある小・中・高校生等が体験活動や自然との触れ合い、グループでのレクリエーション活動等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。

2 期 日 令和３年 ①６月１９日（土）、③１０月１６日（土）、④１１月２０日（土）
 年６回実施 ※②回目予定の令和３年９月 ４日
 ④回目予定の令和４年１月１５日
 ⑤回目予定の令和４年３月 ５日は中止（コロナウイルス感染防止）

3 対 象 者 小・中・高校生（不登校及び不登校傾向の児童生徒）

4 募集定員 ２０人程度

5 参 加 者 １回目：１５人、３回目：６人、４回目：８人

6 指 導 者 国立大隅青少年自然の家職員

7 日程と主な活動

回	実施日	時間	活動内容
①	６月１９日（土）	１０：００～１２：００	カヌー体験，海釣り体験
③	１０月１６日（土）		カヌー体験
④	１１月２０日（土）		ピザ作り

8 事業運営上の配慮

- 屋内で過ごしている子ども達が外に出て、楽しめるような内容を計画した。
- 新型コロナウイルス感染防止に対応した内容を企画した。

9 参加者の感想

- カヌーに生まれて初めて乗った。最初は少し怖かったけど、とても楽しく、気持ちよかった。また、いろいろな人と親しむことができた。
- ピザの生地から作ったのは初めてだった。とても美味しくてびっくりした。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 参加した児童生徒のほとんどが、明るく笑顔で楽しみながら活動することができた。
- 参加者同士の交流が大変活発に行われていた。
- 事前に保護者や引率者に児童生徒の現状を聞くことで、接し方の注意点を確認することができた。
- コロナウイルスの感染拡大により、事業が３回中止になった。児童・生徒の居場所づくりをどのように進めていくか。

おおすみくん家 漂流物たんけん隊 ～海・自然・人とのつながり～

- 1 趣 旨 錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることを通して、海・自然・人とのつながりに気付かせる。また、漂流物を使ったクラフト活動を通して、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせる。

2 期 日 令和3年10月30日（土）

3 参加対象 小学5・6年生

4 募集定員 20人程度

5 参加人数 24人（申込25人）



6 指 導 者 鹿児島大学 産学・地域共創センター 特任教授 藤枝 繁氏 自然の家職員2人

7 日 程

時刻	活動内容
9:15	受付
9:25	開会式・オリエンテーション・事前学習（車中）
10:20	柏原海岸着 活動1【漂流物を探そう】①クリーンアップ ②クラフトの宝物探し
11:30	柏原海岸発
12:30	昼食（海浜施設 あずま家）
13:30	活動2【漂流物を使った作品を作ろう】①漂流物額作り ②宝物作り
14:30	活動3【漂流物について学習しよう】
15:30	アンケート記入・閉会式・解散

8 事業運営上の配慮

- 新型コロナ感染防止対策として、マスク着用・手指消毒を徹底し、ソーシャルディスタンスを確保した。
- 専門的知見を有する外部指導者と協議や連絡を密に取り、活動内容の充実を目指した。

9 参加者の感想

- プラスチック等のごみによる被害を減らす活動に取り組みたい。
- 日本が捨てたごみは、アメリカとハワイの間に流れていくことを知った。
- 自分たちのせいで、どこかの動物が苦しんでいることを知った。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 採集前に視点を与えることで、クリーンアップとクラフトを区別した活動ができた。
- 採集・クラフト・学習の3つの活動とも、児童が意欲的に参加していた。
- 1泊2日のプログラムにして、子ども同士の交流や意見交換・グループ活動を取り入れてもいいのでは。



令和3年度 全国高校生体験活動顕彰制度 「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿
IN国立大隅青少年自然の家『見よう！知ろう！伝えよう！地域の魅力！』
～大隅の魅力を発見しながら探究の方法を学ぼう！～

- 1 趣 旨 地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見いだしたりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。

- 2 期 日 1回目：令和3年7月10日（土）～7月11日（日）
2回目：令和3年7月17日（土）～7月18日（日）
7月31日（土）～8月 1日（日）

※コロナウイルス感染防止の観点から2回目を期日を分け実施

- 3 対 象 者 日本在住の高校生及びそれに相応する学籍または年齢にある者

- 4 募集定員 15名

- 5 参加者 12名

- 6 指 導 者 政 岡 亜 果 氏（鹿屋市観光PRレポーター）
迫 睦 子 氏（鹿屋平和学習ガイド）
山 蘭 利 恵 氏（JAXA&YAC宇宙教育リーダー）



- 7 日程と主な活動

1泊2日 2回（24単位時間）

7月10日		7月11日		7月17日		7月18日	
8:45 ～ 9:00	受付	7:00 ～ 9:00	朝食・準備・記念撮影	8:45 ～ 9:00	受付	7:00 ～ 9:00	朝食・準備・記念撮影
9:00 ～ 10:00	ガイダンス(1) アイスブレイク	9:00 ～ 9:50	講義・演習①(2) 「地域理解」	9:00 ～ 9:30	フィールドワーク②の 説明(0.5)	9:10 ～ 10:00	講義・演習④(2) 「行動計画の基礎」
10:10 ～ 11:00	講話(1) 「地域づくりの実践」	10:00 ～ 10:50		9:30 ～ 10:20	フィールドワーク②(4) 「地域課題の探求」	10:10 ～ 10:50	発表②(1)
11:30 ～ 12:30	昼食・休憩	11:00 ～ 11:50	講義・演習②：前半(2) 「課題解決の基礎」	10:30 ～ 11:30		11:00 ～ 11:50	昼食・休憩
12:30 ～ 13:30		12:00 ～ 13:00	昼食・休憩	11:30 ～ 12:30	昼食・休憩	12:00 ～ 13:00	昼食・休憩
13:40 ～ 14:30		13:00 ～ 13:50	講義・演習②：後半 「課題解決の基礎」	12:30 ～ 13:20	フィールドワーク② 「地域課題の探求」	13:00 ～ 13:50	実践の活動のための ガイダンス(1)
14:40 ～ 15:30	フィールドワーク①(5) 「地域の魅力を発見」 (講師紹介 11:00～11:50)	13:50 ～ 14:10	諸連絡	13:30 ～ 14:15		13:50 ～ 14:10	諸連絡
15:40 ～ 16:30		14:15	解散	14:15 ～ 15:05	講義・演習③(3) 「地域課題の探求」	14:15	解散
16:40 ～ 17:30				15:15 ～ 16:05			
17:30 ～ 17:50	諸連絡			16:15 ～ 17:45	発表①(1.5)		
18:00 ～ 19:00	夕食			18:00 ～ 19:00	夕食		
19:00 ～ 20:00	入浴			19:00 ～ 20:00	入浴		
20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓			20:00 ～ 21:30	自主学習・自由交歓		

- 8 事業運営の配慮

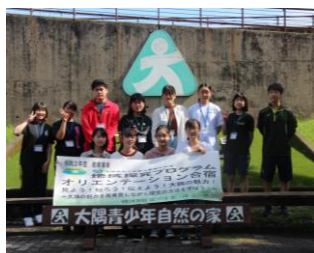
- 個別参加型の形態を取ったため、参加者の意識が非常に高かった。また、自分の興味のあるコースを選択できる形で募集したことも意識が高かったことに繋がった。
- 宿泊に伴う就寝前の自由時間に学習室を開放した。宿題に取り組んだり、お互い教え合う姿が見られたりした。
- 参加者に対して、新型コロナウイルス感染防止対策の協力依頼を事前に実施していたため、対策意識も高かった。

- 9 参加者の感想

- 「みんなと話し合い活動をするのがあんなに楽しいとは思いませんでした」
- 自分の住んでいる地域にも知らないことが沢山あるのだと改めて感じました。

- 10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 「探究のプロセス」をととても楽しく体験できたとの感想が多く聞かれたことから、探究の仕方について一つの方向性を示すことができた。
- コロナ禍ではあるが、各コース、地域の魅力を最大限発信することができた。
- 参加者を増やすための広報活動の工夫が必要。



ボランティア養成研修

- 1 趣 旨 青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。
- 2 期 日 令和3年6月5日（土）～6日（日）1泊2日
- 3 対 象 者 高校生・大学生（短大・専門学校生を含む）・一般
- 4 募集定員 40人程度
- 5 参 加 者 41人（一般2人、大学生17人、高校生22人）
- 6 指 導 者 福満 博隆氏（鹿児島大学共通教育センター准教授）
垂水消防署救急隊員
国立大隅青少年自然の家職員

7 日 程

6/5(土)		6/6(日)	
9:20	受付	6:00	起床・寝具整理・清掃
9:45	開講式	7:30	朝食
10:00	青少年教育施設における体験活動1.5時間	9:00	青少年教育施設におけるボランティア活動 2.0時間
11:30	昼食	11:30	昼食
12:30	青少年教育施設の現状と運営1.0時間	12:30	自然体験活動の安全管理3.0時間（普通救命講習Ⅰ）
13:40	ボランティア活動の意義1.5時間	15:40	閉講式
15:30	ボランティア活動の技術4.0時間（野外炊飯）	16:00	解散
20:30	入浴		
22:00	就寝		

8 事業運営上の配慮

- 事前に参加者に研修期間中の新型コロナウイルス感染対策等の協力依頼を行った。

9 参加者の感想

- 具体的な法人ボランティアの活動やその意義について知れて、よりボランティアへの意欲がわいた。
- 係の方々が活動前・活動中・活動後に声をかけてくださって、スムーズに活動することができました。
- 野外炊事で職員の方が的確に助言をしてくださいました。自身ができていないところをボランティア活動で指導するわけにはいかないので気を付けたいと思いました。
- ボランティアについていろいろな話が聞けて良かったです。今後の事業計画についても知れたので、出来るだけ参加させていただきたいと思いました。準備・実施ありがとうございました。
- 講習などもたくさんあって思っていたよりハードでしたが、適度に休憩も取らせてくださって、充実した2日間が送れました。

10 成果

- 青少年教育の基礎知識、救命講習、薪割り、危険予知トレーニング、火おこし、野外調理など、基礎を経験させることができた。
- 鹿児島大学、鹿屋体育大学をはじめ、大学生の参加者が17名と多く参加してもらったことが良かった。



NEALインストラクター養成研修

- 1 趣 旨 自然体験活動指導者認定制度のもと、自然体験活動上級指導者（NEALインストラクター）の資格取得に必要な講習会（概論Ⅱ）を開催し、専門的な知識と技術をもって自然体験活動の普及や振興に貢献する指導者を養成する。
- 2 期 日 令和3年4月27日（火）～30日（日）3泊4日
- 3 対 象 者 NEALリーダーを取得し、かつ演習Ⅰを履修済みの方
- 4 募集定員 15人程度
- 5 参 加 者 社会人7人（県立教育施設3人、国立教育施設4人）
- 6 指 導 者 馬籠 裕二氏（鹿児島県発達障害者支援センター発達障害者支援アドバイザー）
須田 淳 氏（えびのエコミュージアムセンター）
薄井 良文氏（WakuWaku OFFICE あそBe隊代表）
国立大隅青少年自然の家職員

7 日 程

4月27日（火）		4月28日（水）		4月29日（木）		4月30日（金）	
13:00	受付	7:30	朝食	7:30	朝食	7:30	朝食
13:30	開講式	9:00	学校教育における 体験活動	9:00	自然体験活動の安 全管理	9:00	自然体験活動の企 画・運営
13:40	ガイダンス	10:40	自然体験活動の特質	12:10	昼食	12:10	昼食
14:20	対象者理解	12:10	昼食	13:10	自然体験活動の指導	13:10	ガイダンス
17:40	オリエンテーション	13:10	自然体験活動の技術	14:50	自然体験活動の企 画・運営	13:50	修了試験
18:10	夕食	16:30	自然体験活動の指導	18:10	夕食	14:30	閉講式
19:00	入浴	18:00	夕食	19:00	入浴		
		19:30	入浴				

8 事業運営上の配慮

- コロナウイルスの流行を踏まえ、事前に参加者に研修期間中の感染対策等の協力依頼を行った。
- 外部講師との事前打合せで、座学中心とならないようなプログラム内容を企画した。

9 参加者の感想

- コロナ禍ではあったが、対策もしっかりしていて良かった。施設も清掃が行き届いている。おいしくボリュームのある食事、素敵な職員さんたちばかりで、楽しく参加できました。今回学んだことを活かし、今後頑張っていきたい。
- 最近はコロナでなかなか研修に出たり、人と接する機会がなかったりしたので、とても充実した3泊4日となりました。また人数も少なかったことが全員と話すきっかけにもなり、他施設の情報も聞くことができました。今回学んだことを施設に戻ってもフィードバックしていきたいと思います。
- 4日間大変お世話になりました。学んだことを普段の業務で活かしていきます。参加者の方と交流ができたのもとても良かったです（人数も少なくても）。感染症対策を始め、色々とお気遣い頂きありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

10 成果と課題（○成果 ●課題）

- 「初めて学ぶことが多い」「非常に良い」など、講師が展開するプログラムについて参加者から十分な評価をもらったことから、講師の選定は適切であったと考えられる。
- NEALインストラクター概論Ⅱ終了後の「演習Ⅱ」の実施において、特に主任講師がいない他組織のサポートを行うことで、NEAL資格取得の利便性の向上を図ることが必要である。



鹿屋体育大学との連携による

おおすみくん家 スポーツキャンプ ～バレーボール～

- 1 趣 旨 鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。
- 2 共 催 国立大学法人 鹿屋体育大学
- 3 期 日 令和3年7月3日（土）～4日（日）1泊2日
- 4 対 象 者 中学校のバレーボール部員及び指導者
- 5 募集定員 4チーム40人程度
- 6 参 加 者 3チーム34人
- 7 指 導 者 国立大学法人 鹿屋体育大学 教授 濱田 幸二 氏
同 講師 坂中 美郷 氏
同 バレーボール部員
国立大隅青少年自然の家職員（生活指導等）



8 日 程

7月3日（土）		7月4日（日）	
9:00	受付（鹿屋体育大学）	6:00	起床・準備・清掃
9:10	開会式	7:30	朝食
9:30	練習1（体力測定）	8:45	鹿屋体育大学へ移動
12:00	昼食	9:00	練習3
13:30	練習2	12:00	昼食
16:45	自然の家へ移動	13:30	練習4
17:15	オリエンテーション	15:40	閉会式
17:30	入浴・夕食	16:00	解散
20:00	チームの時間		
22:00	就寝		

9 事業運営上の配慮

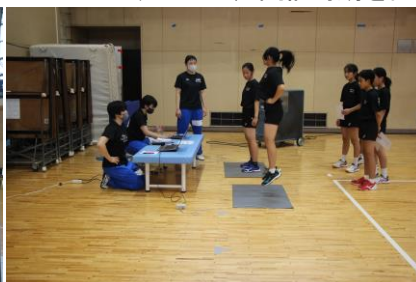
各チームにとって課題解決につながる練習となるように、チームの実態に合わせて練習を行い、監督と活動内容を話し合いながら進めた。

10 参加者の感想

- 大学生が丁寧に教えてくれたので、たくさんのことを学べた。
- 自然の家と体大が協力して計画されていたので、指導者も保護者も安心して参加できた。
- 今まで気づけなかったことに気づけてよかったです。わかりやすい説明、練習で自分の苦手だったところを克服できた。

11 成果と課題（○成果 ●課題）

- それぞれのチームが技能のレベルにあわせ、監督・チームのニーズに即した練習をすることができた。
- レベルの高い基礎練習が組まれていて、参加者の満足度が高かった。
- 鹿屋体育大学バレーボール部員が普段の練習の様子や紅白試合を参加者に見せてくれたことで、参加者は高い技術を目の当たりにできた。
- 毎年、実施時期に県大会が行われているはずなので、開催時期を再検討する必要がある。



Ⅲ 令和3年度における傷病発生状況

1. はじめに

令和3年度に、当施設では延べ23,755人の利用者が活動を行った。利用者の健康と安全には所全体で取り組んでいるが、例年数件の傷病が発生している。令和3年度の傷病発生状況について、傷病記録表・病院受診報告書をもとに、前年度と比較しまとめたものを報告したい。

2. 傷病発生総数

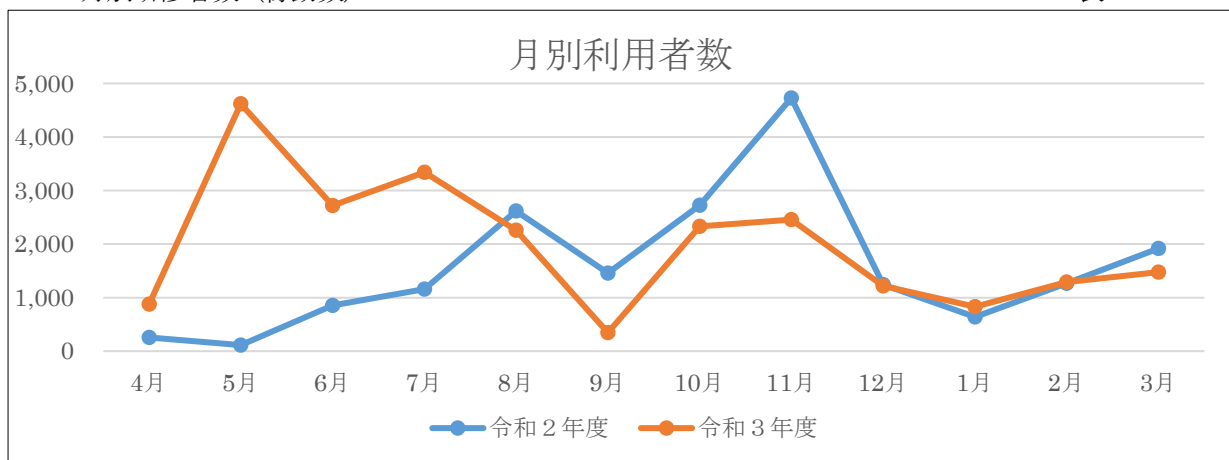
表1

	総数	内科系傷病 (%)	外科系傷病 (%)	利用者数に対する発生率	利用者数 (稼働数)
令和3年度	47	23 (48.9)	24 (51.1)	0.1979	23,755
令和2年度	35	24 (68.6)	11 (31.4)	0.1845	18,968
令和元年度	71	50 (70.4)	21 (29.6)	0.1079	65,812

3. 月別研修者数及び傷病発生状況

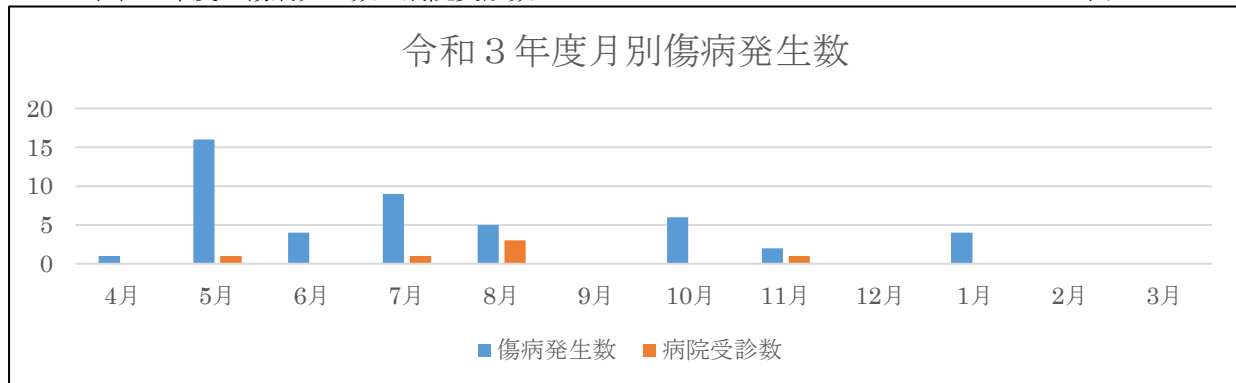
月別研修者数 (稼働数)

表2



令和3年度 傷病発生数・病院受診数

表3



令和2年度 傷病発生数・病院受診数

表4

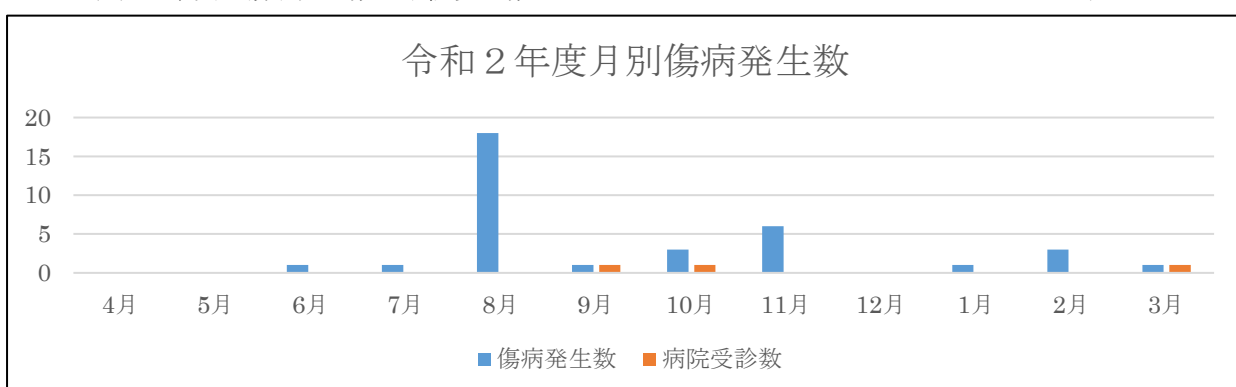


表4 令和2年度の傷病発生数は、8月のみ多い結果となっており、利用者総数に対する発生率も前年より増加していたが、令和3年度の傷病発生数は、月別研修者数に比例しており、利用者に対する発生率もほぼ横ばいであった。病院受診者は、前年度が3人であったものが、本年度は6人であった。

4. 傷病発生順位

表5

内科系	令和3年度	令和2年度	外科系	令和3年度	令和2年度
1位	発熱	頭痛	1位	切傷・捻挫	切傷
2位	頭痛・腹痛・倦怠感	腹痛・発熱	2位		捻挫他
			3位	打撲	(表6参照)

下表は内科系と外科系それぞれの傷病発生の割合を表したものである。

表6

内科系傷病者数 (%)			外科系傷病者数 (%)		
	令和3年度	令和2年度		令和3年度	令和2年度
発熱	5 (21.73)	4 (16.67)	切傷	6 (25.00)	4 (36.36)
頭痛	3 (13.04)	5 (20.83)	捻挫	6 (25.00)	1 (9.09)
腹痛	3 (13.04)	4 (16.67)	打撲	4 (16.67)	1 (9.09)
倦怠感	3 (13.04)	0 (0.00)	突き指	3 (12.50)	0 (0.00)
嘔吐	2 (8.70)	2 (8.33)	虫刺され	2 (8.33)	1 (9.09)
吐き気	1 (4.35)	1 (4.17)	すり傷	1 (4.17)	1 (9.09)
生理痛	1 (4.35)	1 (4.17)	骨折	1 (4.17)	0 (0.00)
けいれん	1 (4.35)	0 (0.00)	かぶれ	0 (0.00)	1 (9.09)
発疹	1 (4.35)	0 (0.00)	火傷	0 (0.00)	1 (9.09)
咳・喉の痛み	0 (0.00)	1 (4.17)			
その他	3 (13.04)	6 (25.00)	その他	1 (4.17)	1 (9.09)
合計	23	24	合計	24	11

5. 結果・考察

新型コロナウイルスの感染が拡大して以来、利用及び活動に制限が続いてきた。現在も制限等続いているが、少しずつ以前の生活に近づける工夫がなされ、減少していた利用者数も増加傾向である。ただ、それに伴い、表1 傷病発生総数は、前年よりやや多くなった。

表5・6で内容を確認すると、外科系疾患の増加が見られ、軽傷ではあるが多くが不注意・不適切な行動により受傷しており、今後注意していく必要がある。

内科系疾患については内容に大きな変化は見られなく、新型コロナウイルス感染拡大以降、病気・怪我ともに症状が軽くとも職員や指導者へ相談する傾向にあるため、軽傷が多い。今後もマスクの着用、手洗いやうがい、手指消毒等、感染防止対策を促すとともに、安全対策・施設の環境整備につとめ、少しでも病気や怪我の発生及び重症化を防止していきたい。

6. まとめ

新型コロナウイルスが確認され、感染対策や生活様式が様変わりしてきた。正しい情報を適宜収集するとともに、その中で安全に活動していくための配慮や工夫を今後とも続けていく必要がある。

また、本施設周辺は、広大な自然に囲まれており、自然の美しさ、雄大さ、神秘さを感じることができる。その反面、自然の厳しさ、危険性も考え、利用者が無理なく安全に活動を展開できるよう、施設の管理・整備を充実していかなければならない。また、利用者の危険予知能力を高めるためにも、活動開始時の指導をさらに充実していく必要がある。

Ⅳ 令和4年度 国立大隅青少年自然の家運営方針

Ⅰ 基本的な運営方針

- 1 青少年教育のナショナルセンターとして、次代を担う青少年の自立に向けた健全育成を総合的に推進する。その際、青少年が社会の担い手となることを支援する拠点としての役割や「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携強化を図るとともに、今後の地域における社会教育が目指す役割（人づくり・つながりづくり・地域づくり）として、学びと活動の循環が重要であることを踏まえる。
- 2 国土強靱化基本計画によるリダンダンシー（広域防災補完拠点）としての防災・減災教育等の推進や子どもの貧困対策等の国の政策実現に向けた取組の推進を図る。
- 3 利用団体への教育的支援の充実、家庭・地域の教育力の向上や体験活動の普及、地域との連携・協働の推進による地域貢献を重点事項と捉え、教育事業や研修支援等において体験活動をより一層推進する。
- 4 業務運営全体を通じて、新型コロナウイルス感染防止対策を含めた安全管理意識の徹底を図るとともに、特に感染拡大によって体験の機会や人と人とが関わる機会が減少していることを踏まえ、感染拡大が落ち着いた後の利用団体のニーズや体験の機会の確保について、様々な関係機関と連携しICTを活用しながら体験活動の充実を目指す。

【参考】

- * 「第3期教育振興基本計画」（平成30年6月15日閣議決定）
- * 「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について（答申）」
（平成30年12月21日）
- * 「独法改革に関する国の動向とこれまでの機構の主な対応等について」

Ⅱ 事業運営に関する重点事項

- 1 子どもたちの知・徳・体のバランスのとれた成長に大切な様々な体験活動や基本的生活習慣の重要性を普及するため、教育事業や研修支援等を通じて、青少年教育団体等と連携して「体験の風を起こそう」運動及び「早寝早起き朝ごはん」国民運動を連動させて取り組み、体験活動の機会や場を充実させるとともに、青少年の基本的生活習慣の確立を目指す。
- 2 施設の個性化、高度化、拠点化を目指した特色あるプログラムや国の政策実現に向けたプログラムの開発及び拡充を行う。
 - (1) 特色あるプログラムの開発・拡充
 - (2) 国土強靱化計画に資する防災・減災教育プログラムの開発・拡充
 - (3) SDGsの達成・ESDの推進に資するプログラムの開発・拡充

Ⅲ 教育事業の質の充実と普及

- 1 次代を担う青少年の自立に向けた健全育成事業

青少年の健やかな成長と自立を推進するため、青少年教育のナショナルセンターとしての機能の向上、人づくり・つながりづくり・地域づくりという側面に留意した教育事業を実施する。

 - (1) 社会の要請に応える体験活動事業の実施
 - ① 親子や幼児等を対象に自然体験や読書活動などに親しむ教育事業

家族のつながりを深めるとともに、他の家族との交流を図り、基本的生活習慣や社会規範等の社会性を身に付けさせることを目的に「ファミリーキャンプ」を5回実施する。

また、自己肯定感や創造力を育む機会として日本の伝統や芸術である書道に親しむ教育事業を実施する。当施設の特色ある活動プログラムや季節に合わせた自然体験や読書活動を実施し、体験することの楽しさや重要性について普及・啓発を図る。
 - ② 青少年を対象に自己成長や自己実現等を図る教育事業

小学3・4年生を対象に、共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わったり協力した

りしながら基本的生活習慣を身に付けさせるとともに、自立心や自尊感情を育てることを目的に「キッズたんけん隊」を実施する。

なお、標記の教育事業は、県内の青少年教育施設や青少年団体等への普及及びプログラムの活用を考慮し、関係機関等と連携して実施するとともに、この事業に関わるボランティアのスキルアップにも努める。

③ 防災学習や環境学習などESDに対応した教育事業

国土強靱化基本計画によるリダンダンシー（広域防災補完拠点）としての防災・減災教育等を推進することを目的に「防災ファミリーキャンプ」を実施する。

(2) モデル的事業の実施

関係機関・団体や公立青少年教育施設、大学の研究者等と連携した上で、報告書等を通して広く青少年教育関係者へ発信する。

① 実践研究事業

長期自然体験活動を通して、豊かな人間性や青少年の生きる力を育むとともに、異年齢との交流を図りながら、不登校など心に悩みをもつ青少年の自立を支援することを目的に「海からのメッセージ」を実施する。

なお、実施の際には、県内の青少年教育施設及び鹿屋体育大学海洋スポーツセンターと連携するとともに、研修会等における報告を通して広く鹿児島県の青少年教育関係者へ発信する。

実施方法の留意点については、次のとおりとする。

ア 事業のねらいに対応した実践研究を大学の研究者等と協働で行い、評価を得る。

イ 青少年のための専門性の高いモデル的体験活動を取り入れる。

ウ 体験活動の効果測定等を行い、その重要性の普及に努める。

エ 成果等については、第四期中期目標期間内に報告書を2回作成する。

② 地域の実情を踏まえた体験活動事業

ア 特色あるプログラムの事業

親子で錦江湾内の漂流物を採集し、それらがどんなものでどこから流れ着いたかを考えることを通して、海・自然・人とのつながりに気付かせるとともに、漂流物を使ったクラフト活動を行い、それらを生かす工夫や環境問題に目を向けさせることを目的にした「ファミリーキャンプ」を実施する。

なお、環境教育（海洋）の教育テーマに基づいた特色化事業を、4つの国立青少年教育施設（若狭湾青少年自然の家、江田島青少年交流の家、沖縄青少年交流の家）で連携して推進を図る。

イ 全国高校生体験活動顕彰制度に関連する事業

高校生を対象に、体験活動を通して地域が抱えている課題を自ら見だし、その解決に向けた探求活動を通して、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育成することを目的に「地域探究プログラムオリエンテーション合宿」を実施する。

ウ 地域の教育力を高める事業

鹿屋体育大学との連携協定に基づき、青少年の体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上やコミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援することを目的に、「おおすみくん家スポーツキャンプ」（バレーボール・野球・バスケットボール）を実施する。

鹿児島高専と連携して、自分の進路や将来を見据えた「ロボット・プログラミング体験教室」を実施する。

(3) 課題を抱える青少年の支援事業

① 児童養護施設に入所する児童を支援する事業

児童養護施設及び母子生活支援施設で生活する子どもたちを対象に、自然体験活動及び生活体験活動を通して基本的生活習慣の確立等の課題に対応するため、生活・自立支援

事業「子ども生き生き体験学習」を実施する。

- ② 不登校、引きこもり、ネット依存等の発達障害や身体障害など課題を抱える青少年の支援事業

鹿児島県教育庁義務教育課と連携して、不登校及び不登校傾向の小・中・高校生を対象に、自然体験活動の楽しさや人とのふれあいの大切さを知ることを目的に、「おおすみくん家に遊びに来ませんか!」を5回実施する。

- (4) 地域ぐるみ事業

鹿児島県及び宮崎県、市町教育委員会、青少年教育施設、学校、青少年団体、企業、NPO法人等と連携し『鹿児島・宮崎「体験の風をおこそう」運動推進事業』を推進するとともに、協力団体の拡充に努める。

また、県内の青少年教育施設、地域、近隣の高等学校、関係機関等と連携して、「体験の風をおこそう」フェスティバルを秋と冬の2回実施する。

2 青少年教育指導者等の養成事業及び関係機関・団体等との連携促進

- (1) 自然体験活動指導者養成事業（NEAL養成事業）の実施

青少年に良質な体験活動の機会と場を提供するためには、質の高い指導者を養成することとが必要不可欠であることから「自然体験活動指導者（リーダー）研修会」を実施し、青少年教育指導者等の資質・能力の一層の向上を図る。

* 実施方法の留意点

自然体験活動指導者養成事業を九州ブロックで、自然体験活動指導者（リーダー）養成事業を2事業以上、自然体験活動上級指導者（インストラクター）養成事業を1事業以上実施する。

- (2) ボランティア養成・研修事業の実施

教育事業や研修支援等の運営協力・指導補助などを担うボランティアを育成し、青少年教育におけるボランティア活動の一層の推進を図るとともに、「ボランティア養成共通カリキュラム」に準拠した「ボランティア養成研修」を実施する。

- (3) 外部研修指導員等の活用

利用者に良質な体験活動を推進するために、外部研修指導員の拡充を図るなど、指導力向上の研修を実施する。

IV 研修支援の充実との利用拡大

1 研修利用の充実

宿泊室稼働率50%及び青少年人口（0～29歳）の1割程度の利用実績を確保するために、「稼働率向上（利用者増加）のための数値目標の設定及び行動計画」を策定し、着実な実施に努めるとともに、利用状況の分析や利用団体に対するアンケート調査を行い、利用促進に向けた方策を検討・実施する。

* 令和4年度目標

期 間		年 間	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
利用者数 (人)	合 計	43,500	11,450	12,200	12,650	7,200
	日 帰 り	14,300	3,450	2,700	6,250	1,900
	宿 泊	29,200	8,000	9,500	6,400	5,300
宿泊室稼働率 (%)		51.0	47.5	60.0	45.0	51.5

2 活動プログラム等における教育的な指導及び支援の充実と検証

利用団体の特性や目的を把握した上で多様なプログラム提案を行うとともに、適切な指導・助言を行う。また、引率者を対象としたアンケート（施設利用に関するアンケート調査）によって、教育的指導及び支援の充実に努める。

さらに、活動プログラム等の方法・効果が明確になるよう教材や指導資料等の工夫・見直し

を行うとともに、事前打合わせ等でのICT機器の活用に努める。

3 学校との連携・協働による体験活動プログラムの充実

学習指導要領に基づき、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた学校との連携を強化し、「主体的・対話的で深い学び」が可能となる活動プログラムを各年齢期に応じて提供する。

- (1) 幼児期：自然を活用した幼児期の運動プログラムを活用した場づくり
- (2) 小・中学校：集団宿泊行事等における教科等と関連付けた体験活動プログラム
- (3) 高等学校：「地域探究プログラム」のオリエンテーション合宿

4 利用状況の検証と広報の充実

四半期ごとに利用者数及び施設利用に関するアンケート調査結果に対する増減の要因を検証する。また、学校、青少年団体、地元関係者等に対する広報は効率的かつ効果的な計画を作成し、確実に実行するとともに、年度末に研修支援等の体制に関する検証を行う。

- (1) 施設業務運営委員会などで幼稚園・保育園、小・中学校、高等学校、大学、スポーツ少年団等の年間広報計画（直接訪問計画を含む）を立て、全職員で広報活動に取り組む。
- (2) ホームページの計画的更新に努めるとともに、フェイスブックやLINE等の媒体を有効活用して、積極的に事業等の情報を発信する。
- (3) 鹿児島県教育庁社会教育課及び鹿児島県政記者クラブ（青潮会）等との連携を図り、プレスリリースを行うとともに、地元新聞社、テレビ局、ラジオ局のマスメディアを積極的に活用し、広報の充実に努める。
- (4) ファミリー会員制度登録者を対象にして、優先的に事業案内を行い、会員相互の交流及び当施設の利用促進を図る。
- (5) 道の駅、フェリー乗り場等の様々な集客施設や新規の広報箇所（雑誌、地方公共団体等）に協力依頼を行うなど、広報紙配布及び情報提供など効率的な広報に努める。

V 安全安心な教育環境の確保

1 施設における安全管理研修の計画・実施及び安全対策マニュアルの整備

施設における安全研修の年間計画を策定し、全ての事業系職員が安全対策を図った上で指導ができるよう研修を行う。また、「危機管理関係マニュアル点検方針」及び安全点検マニュアル等の点検、見直しを常時行う。

特に、海浜活動をはじめ野外活動時に不測の事態が発生した時は、全職員が迅速かつ適切に対応ができるよう「安全対策マニュアル」に基づいて行動する。

2 安全安心な教育環境づくり

新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図るとともに、教材教具・活動備品、活動場所等の日常的な点検・整備を通じて、安全安心な教育環境を確保する。

また、鹿児島県教育庁大隅教育事務所及び鹿児島海上保安部・喜入海上保安署等関係機関と連携し、海浜活動に関する安全対策について協議することを目的として、「海浜活動安全対策協議会」を開催する。

3 緊急連絡網の整備

利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、全職員及び本部・関係部署並びに業者等への緊急連絡網を整備するとともに、随時見直し更新を図る。

4 安全管理・衛生管理の徹底

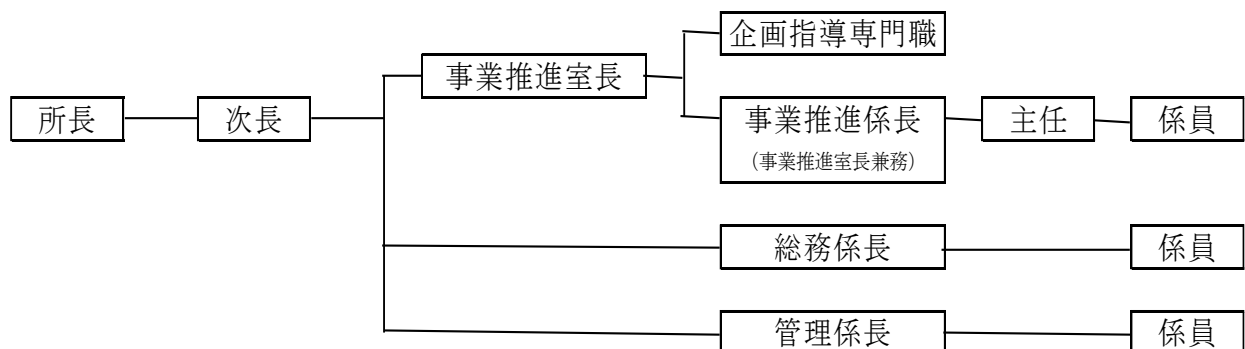
利用者及び職員に不測の事態等が生じた場合に適切及び迅速な対応ができるよう、日頃から危機的状況を想定し、適切な対応ができるよう体系を構築する。

- (1) 宿泊室やトイレ等の生活環境エリアの不良箇所等の早期発見及び早期修繕を行う。
- (2) 安全管理・衛生管理に関する情報を全職員へ周知徹底する。
- (3) 地形、気象、動植物等の危険要因に関する情報を利用者へ提供するとともに、野外・海浜活動記録簿を活用し、安全対策の指導・助言を徹底する。
- (4) 活動用具や火気等の取扱いの指導を徹底する。

- (5) 新型コロナウイルス等の感染症及び食中毒の予防の徹底を図るとともに、発生時の迅速な対応を行う。
 - (6) 喫煙者の空間分煙を徹底する。
 - (7) 定期健康診断及びその他各種検診等を行い、職員の健康増進に努めるとともに、身体及び心の健康に関する相談等の充実を図るなど、職員の健康管理を充実する。
 - (8) 人権擁護、セクハラ防止等を徹底するとともに、相談制度を充実する。
 - (9) 盗難・盗撮・事故防止のためのセキュリティ対策を再確認するとともに整備する。
 - (10) 情報セキュリティの整備を図る。
- 5 安全管理・危機管理に関する研修・訓練の実施
- 不測の事態等に関して、職員が迅速かつ適切な対応ができるよう、所内研修及び専門訓練等を確実に実施し、技術・熟練度の向上を図る。
- 6 緊急時の対応（火災・地震・自然災害等）
- 火災や地震、自然災害等の緊急時における職員の対応として、利用者の安全で速やかな避難、負傷者の適切な救助、汚染拡散防止（二次被害の防止）等に関する知識や技能を身に付けるとともに、防災に関する意識の高揚を図ることを目的に、避難訓練を年2回（火災・地震）実施する。

VI 業務運営に関する事項

1 組織



2 効率的・効果的な組織の運営

(1) 地域と連携した施設の管理運営

施設業務運営委員会の中に、NPO・企業・各種団体等の代表者が、実際に事業の企画・実施や施設の管理運営、施設の利用促進に参画する専門部会を設置し、効率的・効果的な施設の管理運営に努める。

また、地元企業等との連携も視野に入れ、特に青少年教育活動に賛同していただける企業と連携・協力しながら、教育事業を推進していくことも考慮していく。

(2) 計画的な人事評価

個々の能力を最大限に発揮させ、組織の活性化を図り効率的な事業運営に資するため、業績評価を年2回、能力評価を年1回実施する。

3 効率的な予算執行

管理運営経費縮減のため、既定経費の見直しを行うとともに業務の合理化により、対前年比1%以上の縮減を図る。

(1) 光熱水料の節減・節約

冷暖房の細かな運転管理、冷暖房吹出温度・期間の管理及び活動プログラムの調整により、効率的な活動計画を行い、光熱水料削減に努める。また、利用者に対しても、打合せ時に節減協力の要請を積極的に行う。

(2) 適切な外部委託

外部委託業務の簡素化・効率化を検討し仕様内容の見直し等進めながら外部委託を行うと

ともに、業務が仕様書通りに履行されているか日々の状況確認を徹底する。

また、経費の必要性を検討し、職員でその業務の実施をする等、経費削減への対応に努める。

4 自己収入の確保

積極的に外部資金等、自己収入を確保し事業運営への活用を図る。

(1) 協賛事業の積極的な推進

企業等への当施設の持つ機能の理解促進を図り、外部資金による事業等の実施に努める。

(2) 寄附金の受入の推進

青少年教育活動に理解を得るための広報活動を充実させ、ホームページへの掲載等による企業等からの寄附金の募集を積極的に行い、受入の推進を図り、寄附金の増加に努める。

(3) 受益者負担による収入の確保

自己収入の拡大を図るため、新規の受益者負担及び関連の制度見直しを行う。

(4) 土地・建物等の貸付及び清涼飲料水（自動販売機）の提供委託業務の工夫・改善

土地・建物等の貸付については、利用者の利便性を損なわないよう売店等とする。また、清涼飲料等（自動販売機）の提供委託業務については、売上を考慮した商品の入替等を行い、手数料収入の増を図る。

(5) 受託実習生の積極的な受入

受託実習生について、受入体制を整備し、連携機関との連携を強化し、受入増を図る。

(6) 受託事業、協賛事業の積極的な事業推進

当施設の持つ機能の理解促進を図り、積極的に外部資金の確保に努める。

5 計画的な施設・設備の改修整備の実施

利用者が快適にまた安心して生活し、体験活動も効果的に実施されるよう、施設・設備の改修整備を進める。また、既存施設・設備について、利用者アンケート、利用状況及び運営委員会等により利用者の意見やニーズの把握に努め、効率的な研修活動が図られるよう必要な改修整備を進める。特に、自然体験活動エリア内において、利用者の安全性を確保するため、緊急性・必要性を勘案し優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備等の改修整備を進める。

また、利用者の安全性及び利便性を優先するために、補修箇所を速やかに発見し対応できるよう職員による定期的な巡回の回数、範囲、方法や点検項目等の見直しを図る。

(1) 防災の観点に立った整備

安全な利用者の活動・生活環境の確保のため、老朽化している箇所の改修整備計画を立て、緊急性・必要性を勘案して優先順位を決定するとともに、屋内外用具・設備（インラインスケート場、マウンテンバイクコース等）の改修整備を進める。

(2) 研修環境の確保の観点に立った整備

研修環境の改善として、当施設のキャッチフレーズである「錦江湾・黄金の夕日 大隅」としての眺望を確保するよう環境整備を行う。

(3) 利用者の意見等を反映した整備

教育事業参加者、研修支援における利用者の意見や利用団体活動の多様化に対応するため、施設（管理研修棟・学習棟・宿泊棟・キャンプ場・新城海の家・太陽の家・いろり庵等）における生活環境の整備を進める。

(4) 高齢者及び身体の不自由な方に配慮した改修整備

高齢者及び身体の不自由な方が安心して快適な活動ができるように施設・設備の点検及び改修整備を進める。

V 令和4年度教育事業等計画一覧

I 青少年教育に関するモデル的事業

1 実践研究事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
1	海からのメッセージ	鹿児島湾(錦江湾)を舞台に、海の素晴らしさや厳しさを体験することにより、「生きる力」を育む。また、実践研究として体験活動の重要性の普及に努める。	8. 11(木)～16(火) 5泊6日	小学5年生～高校生	32	鹿屋体育大学 関係漁業協同組合 鹿児島海上保安部 ほか

2 特色化事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
2	ファミリーキャンプ②(漂流物)	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、漂流物を通して、環境問題に自ら取り組むきっかけとする。	6. 25(土)～26(日) 1泊2日	家族	10組 40	

3 地域探究プログラム

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
3	全国高校生体験活動顕彰制度オリエンテーション合宿	地域の魅力を発見したり、抱えている課題を自ら見出したりする探究活動を通して、ものごとを探究する姿勢、主体的に取り組む態度、実践活動に必要な考え方・知識を学習する。	7. 16(土)～18(祝月) 2泊3日	県内高校1・2年生	15	鹿屋市観光協会ほか

II 社会の要請に応える体験活動等事業

1 自然体験や読書活動等に親しむ事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
4 5 6	ファミリーキャンプ①・③・④	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。	①5. 28(土)～29(日) 1泊2日 ③7. 23(土)～24(日) 1泊2日 ④8. 27(土)～28(日) 1泊2日	家族	10組 40	
7	おおすみくん家 キッズたんけんたい	小学校中学年の子どもたちが親元を離れて共同生活や自然体験活動を行い、仲間と関わる活動を通して、自立心や自尊感情を育てる。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	10. 29(土)～30(日) 1泊2日	小学3・4年生	40	
8	おおすみくん家 通学合宿	集団宿泊生活や生活体験活動を行いながら学校生活を送ることを通して、望ましい生活習慣や学習習慣を身につける。また、読書活動を通して豊かな情操を養う。	1月～2月(4週8回)内で2泊3日	小学4～6年生	各40	

2 自己成長や自己実現を図る事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
9	おおすみくん家 スポーツキャンプ【バレーボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	6. 18(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
10	おおすみくん家 スポーツキャンプ【野球】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 23(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
11	おおすみくん家 スポーツキャンプ【バスケットボール】	鹿屋体育大学との連携協力協定に基づき、体力・運動能力を踏まえたトレーニング法によるスポーツ技術の向上や、コミュニケーション能力の向上を図り、青少年の自立を支援する。	7. 30(土) 1日	中学生部員及びその指導者	80	鹿屋体育大学
12	ロボット・プログラミング体験教室	ロボット操作やプログラミング学習を体験することで、論理的な思考を身につけるとともに、自分の進路や将来を考えるキャリア教育の機会となる。	10. 15(土) 1日	小学5年生～中学生	30	鹿児島高専
13	登山教室	登山を通して、自然と関わることの素晴らしさやスポーツとしての登山の楽しさを味わう。	11. 5(土)～6(日) 1泊2日	小学5年生～中学生	30	霧島山岳会
14 15 16 17 18	スポーツクライミング教室①～⑤	スポーツクライミングを通して、普段の動きとは違う体の使い方を体験し、自分のペースで目標を目指し、達成感を味わう。	①11. 5(土) ②11. 26(土) ③12. 24(土) ④1. 21(土) ⑤1. 28(土)	子ども・家族	各50	鹿屋登攀クラブ

3 防災・減災教育事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
19	防災ファミリーキャンプ	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、災害について、親子で必要な知識を得るとともに、防災への意識を高める。	11. 19(土)～20(日) 1泊2日	小学5年生以上の子ど もが家族	10組 40	鹿屋体育大学 鹿児島県防災研修セ ンター

4 その他

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
20	ファミリーキャンプ⑤(書道)	自然体験・生活体験等を通して、家族の絆を深めるとともに、子どもの豊かな情操を養う。また、書道に親しむことで、自己肯定感や想像力を育む機会とする。	10. 9(日)～10(祝月) 1泊2日	家族	10組 40	

Ⅲ 課題を抱える青少年を支援する体験活動事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
21 22 23 24 25	おおすみくん家に遊びに来ませんか！①～⑤	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生が自然体験・生活体験等を通して、野外活動の楽しさや人との触れ合いの大切さを知る。	①6. 18(土) ②9. 3(土) ③10. 15(土) ④11. 19(土) ⑤1. 21(土)	不登校及び不登校傾向のある小・中・高校生	各10	鹿児島県教育委員会 義務教育課
26	子ども生き生き体験学習	児童養護施設で生活する児童生徒を対象に自然体験・生活体験等を通して、生活の自立を支援するとともに、人間関係形成力の向上を目指す。	7. 28(木)～29(金) 1泊2日	児童養護施設の児童 生徒	20	仁風学園

Ⅳ 青少年教育指導者等の養成・資質向上研修

1 青少年教育指導者等の養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
27	自然体験指導者(NEALリーダー)養成事業	青少年をはじめとする多くの人々に対し、自然体験活動等の指導・支援及び推進ができる指導者の資質・能力の向上を図る。	12. 9(金)～11(日) 2泊3日	高校生以上	20	
28	企画指導専門職員研修会	九州の国立青少年施設職員に対して、青少年教育に関する基礎的・専門的カリキュラムを通して、資質・能力の向上を図る。	1. 17(火)～18(水) 1泊2日	国立施設職員	20	

2 ボランティアの養成・研修事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
29	ボランティア養成講座	青少年教育施設の役割を理解するとともに、野外活動等の指導・支援ができるボランティア及び指導者の養成・確保を図る。	6. 4(土)～5(日) 1泊2日	15歳以上・一般	40	鹿児島大学 大隅肝属地区消防組 合
30	ボランティア交流会	ボランティア同士の交流を通して、スキルアップを目指し、全国的にネットワークを広げることでその普及に努める。	12. 17(土)～18(日) 1泊2日	16歳以上・一般	40	

2 独自事業

No	事業名	事業の目的	期 間	対 象	人数	連携・協力団体
31 32 33	宿泊学習等利用者説明会①～③	宿泊学習等における活動プログラムや施設利用について必要な事前説明を行うことにより、児童生徒の活動を充実する。	①4. 14(木) ②4. 21(木) ③8. 24(水)	学校・青少年団体等の 引率者	各20	
34 35	子どもゆめ基金募集説明会【宮崎会場】【鹿児島会場】	子どもゆめ基金の令和5年度申請に関する説明会を実施し、宮崎県及び鹿児島県の各地域における体験活動等を一層充実させ、子供の健全な育成の推進を図る。	宮 崎 9. 10(土) 鹿児島 9. 11(土)	申請予定団体	各50	
36	体験の風をおこそうフェスティバルinアミュ広場 秋	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	10. 23(日)	子ども・親・一般	500	県内7施設及び上野原 縄文の森 ほか
37	地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動の宮崎県への啓発活動	国立青少年施設のない県に啓発活動を行うことで、地域で一体となって体験活動を推進する機運を高めるとともに、体験活動の機会と場を提供する。	11. 15(火)	関係団体	-	宮崎県教育委員会
38	体験の風をおこそうフェスティバルinおおすみくん家 冬	一般の方々に、県内の青少年施設を中心とした活動プログラムの体験を通して、体験活動の重要性を啓発するとともに、青少年施設の利用促進を図る。	12. 4(日)	子ども・親・一般	300	県内7施設及び上野原 縄文の森 ほか

『私たちは国立大隅青少年自然の家の活動を応援しています』

一般財団法人九州電気保安協会 鹿屋事業所

医療法人青仁会 池田病院

医療法人和敬会 平和台病院

大隅鹿屋病院

鹿屋衛生管理センター株式会社

株式会社ウォーターテック 西日本支店

株式会社園幸

株式会社カナザワ

株式会社きたやま

株式会社宮生企画

株式会社コシマ工務店

株式会社坂元電気工事

株式会社桜島

株式会社新生社印刷

株式会社総合印刷

株式会社レモンガスかごしま 鹿屋支店

小鹿酒造株式会社

社会医療法人恒心会 恒心会おぐら病院

大海酒造株式会社

中外電工株式会社 鹿屋営業所

有限会社洵上事務器

有限会社松久保電機

有限会社森伊蔵酒造

有限会社泰夫水産

有限会社熊南空調システム

ワタキューセイモア株式会社 南九州営業所

有限会社南九

医療法人義貫会 中島病院